

東京大学総合文化研究科・教養学部 美術博物館

# 資料集 5

ユネスコ作成  
レオナルド・ダ・ヴィンチ 複製素描画コレクション

2014

東京大学総合文化研究科・教養学部 美術博物館



## はじめに

このたび、東京大学総合文化研究科・教養学部美術博物館収蔵資料の中から、レオナルド・ダ・ヴィンチの複製素描画コレクションを選び、資料集を制作いたしました。中国古美術品を中心とした『東京大学教養学部美術博物館資料集 1』（1985 年）、『東京大学教養学部美術博物館資料集 2 ー有職装束類ー』（2005 年）、『東京大学教養学部美術博物館資料集 3 ー銅鏡ー』（2010 年）、『東京大学教養学部美術博物館資料集 4 ー米内山庸夫コレクション（瓦）ー』（2010 年）に続く、5 冊目の収蔵品資料集となります。

東京大学教養学部美術博物館は、1951 年に教養学部の文理横断型総合教育構想の一環として創立されました。2003 年には、旧制第一高等学校以来図書館として使われてきた建物に全面改修が施され、美術博物館と自然科学博物館を併せた「駒場博物館」の名称で、新たなスタートを切りました。現在では自然科学博物館と連携し定期的に展覧会を開催し、総合文化研究科・教養学部ならではの文系・理系の垣根を越えた活動を行っています。

現在までに集められた収蔵資料は多岐にわたり、旧制第一高等学校関連資料、梅原龍三郎氏寄贈のコプト織、中南米とアジアの考古学資料などがその一例として挙げられます。これらの資料は、教養学部文化系教員で構成される美術博物館運営委員会メンバーの尽力のもとに集められたものです。とくに東洋古美術については初代運営委員長であり東洋史・東洋考古学を専門とする三上次男氏を中心となり、少ない予算の中で収集の努力がおこなわれました。

この度収録したレオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画コレクションは 1953 年に収蔵されたもので、当館活動初期からある収蔵資料のひとつといえます。世界各地に所蔵されているレオナルドの素描画 157 点を原寸大で複製し、全 86 枚のプレートにまとめたもので、英国のウィンザー城王立図書館やフィレンツェのウフィツィ美術館をはじめとした数々の著名な美術館から多種多様な素描画が選りすぐられています。複製でありながらも、レオナルドの芸術家および科学者としての探究心を知る教育的資料として重宝されると同時に、目に喜ばしい鑑賞の対象として、当学の学生ならびに当館来館者に親しまれてきました。また、第二次世界大戦後の文化的復興期にあたる 1950 年代前半に、パリのユネスコ本部によって作成され日本にやって来たという経緯をもつ本コレクションは、美術資料としての価値を持つだけでなく、文化政策や文化交流の歴史が刻印された史料でもあると言えるでしょう。

本資料集の刊行が、学術研究・教育など多方面での参考となれば幸いです。

2014 年 3 月

東京大学教養学部美術博物館  
館長 三浦 篤

## 例言

(1) 本書は東京大学総合文化研究科・教養学部美術博物館所蔵レオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画 157 点（86 パネル）と、その関連資料を収録する。

(2) 参考資料として掲載したユネスコ世界巡回レオナルド・ダ・ヴィンチ展関連新聞記事は、国立国会図書館所蔵の資料から複写掲載した。著作権保護期間内に該当する記事は、p.30 の一覧表に書誌事項のみを記載した。

(3) 図版セクション (ExhibitionB) では、見開きの右頁に写真、左頁に対応する複製画情報と原作品情報を掲載した。左頁上部には駒場博物館登録番号（登録年 1955 年）を記し、同登録番号の右に、それと対応する各種登録番号を以下の順に記した。

- ・東京大学教養学部登録番号（登録年不明、当館収蔵後最初期の管理番号と思われる。）
- ・東京大学教養学部庶務備品登録番号（1969 年登録）
- ・ユネスコ世界巡回展額番号（1951-1952 年制作）
- ・ヴィンチアーナ委員会編書籍中\* 掲載巻号及び図版番号

(4) 図版セクション (ExhibitionB) における複製画情報の記載は、タイトル（和・英）、サイズとした。英タイトルはユネスコが作成した展覧会公式カタログに従い、和タイトルは同公式カタログの和訳版に従った。公式カタログに記載が漏れている作品については、ヴィンチアーナ委員会編書籍を参考に補った。サイズは 2012 年に実測した数値（横×縦）を使用した。

(5) 図版セクション (ExhibitionB) における原作品情報の記載は、制作年、素材、サイズ、所蔵、所蔵元作品番号、解説（和・英）とした。所蔵はユネスコが作成した展覧会公式カタログを第一の情報源とし、現在の所蔵先が異なる場合は現所蔵先を併記した。制作年、素材、サイズ、所蔵元作品番号は、原則として各作品の所蔵先が発行している所蔵品カタログ、オンラインコレクションデータベース、または所蔵品展覧会のカタログに基づいて和訳し、左記資料がない場合はカルロ・ペドレッティ著『レオナルド・ダ・ヴィンチおよびレオナルド派素描集』（森田義之、小林もり子訳、岩波書店、1999 年。）に従うか、「不明」と記した。使用した文献は各原作品情報の下に記すとともに、p.220 に一覧を掲載した。解説はユネスコが作成した展覧会公式カタログ（英・和）に記載があった場合のみ、それに従い記載した。和文は必要に応じて旧字体を新字体に改め、外国語の固有名詞の読み方を現在の慣例に習って書き直し、明らかな誤訳と思われる箇所は改定した。

(6) ExhibitionA, B, C の全目録は巻末に付した。目録情報は、巡回展額番号、タイトル（英・和）、所蔵先、ヴィンチアーナ委員会編書籍中における図版番号及び掲載巻号とした。和タイトルを除く項目はユネスコが作成した展覧会公式カタログに従い、必要に応じて和訳した。和タイトルは同公式カタログ ExhibitionB の和訳版を参考に和訳した。

(7) 本書の執筆、翻訳、資料作成、写真撮影、複製画計測、編集は、黒澤美子が担当した。

(8) 本書を作成するにあたっては、とくに下記の方々にご協力いただいた。記して感謝の意を表する。(50 音順)

ユネスコ公文書記録管理局 トランス・アデーレ氏

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 本間雅子氏

株式会社三越伊勢丹ホールディングス業務本部総務部 山田秀樹氏

\*Reale Commissione Vinciana and Venturi, Adolfo. ed. I manoscritti e i Disegni di Leonardo da Vinci. Disegni. Pubblicati dalla Reale Commissione Vinciana sotto gli Auspici del Ministero della Istruzione Pubblica. Rome, Danesi, La Libreria dello Stato. 1928-1952. 7vols. (Disegni 1, 1928. 2, 1930. 3, 1934. 4, 1936. 5, 1939. 6, 1949. 7, 1952.) 及び Baratta, Mario and Reale Commissione Vinciana. ed. I Disegni Geografici di Leonardo da Vinci Conservati nel Castello di Windsor. Rome, La Libreria dello Stato, 1941.

## 目次

001	はじめに
002	例言
003	目次
004	解説：レオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画コレクションと駒場博物館
029	参考資料：ユネスコ世界巡回レオナルド・ダ・ヴィンチ展関連新聞記事
047	図版：レオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画コレクション ExhibitionB
221	目録：レオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画コレクション ExhibitionA, B, C

## 解説

### レオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画コレクションと駒場博物館

当館はイタリア・ルネサンスの万能人、レオナルド・ダ・ヴィンチ（Leonardo da Vinci, 1452-1519）の複製素描画コレクションを所蔵している。本コレクションは 86 枚のパネルに収められた 157 点の実寸大（一部除く）の複製画からなり、その内容は《ラ・ジョコンダ（モナ・リザ）》や《岩窟の聖母》など名高い絵画作品の下絵から、科学技術分野での探究が窺えるスケッチまで多岐に渡る。これらは 1952 年のレオナルド・ダ・ヴィンチ生誕 500 年を記念して、パリのユネスコ本部により制作されたコレクションである。

本複製画群は駒場博物館の活動初期に所蔵されたもので、折に触れて度々展覧に供されてきた主要コレクションの一つであると言える。にもかかわらず、所蔵時の受入記録が残されていないためにコレクションの成立や来歴の詳細は不明な点が多いまま引き継がれてきた。本調査は、当館のあゆみとともに来館者に親しまれてきたレオナルドの複製画が制作されたいきさつと、駒場の地へと辿り着くまでの経緯を明らかにすることを目的としている。

#### 1. ユネスコ複製画世界巡回展とは

ユネスコが絵画作品の複製画を作成し、それをひとつの展覧会にまとめて世界に巡回展示させる催しは、複製画世界巡回展<sup>1</sup>と名付けられており、その始まりは 1949 年に遡る<sup>2</sup>。同年 6 月にパリのユネスコハウスにおいて、1860 年以降の主要絵画作品 50 点を紹介する「印象派から今日まで<sup>3</sup>」という複製画の展覧会が催された際、同内容の複製画群が 11 セット作成され、他国でも展覧された機会が第一回目の複製画世界巡回展となる<sup>4</sup>。巡回展示は、ルーヴル美術館絵画部門の学芸員ルネ・ユイグ（René Huyghe, 1906-1997）の解説を含むカタログとともに、経済的な理由から芸術作品を所有できずにいる国々において試みられた。初めての巡回先はブラジルのリオ・デ・ジャネイロで、そこで成功を収めた後、さらに小さな村々へ巡回したという<sup>5</sup>。

このような世界規模の複製画巡回展が組織されるに至った背後には、ユネスコ創設の原由でもある第二次世界大戦への反省がある。複製画巡回展の企画が始まった当初から、複製画は単に教育機関の資料や教材として価値があるだけでなく、形式の異なる多様な芸術をあらゆる国々に届け、文化様式を異とする人々の相互理解を深める効果も持つと期待されていた<sup>6</sup>。その効果がユネスコの理念達成と深く結びついていることは、ユネスコ憲章の前文にある以下の有名な句に表れている。

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。<sup>7</sup>

つまり複製画巡回展の目的とは究極的に言えば、芸術作品の鑑賞を通じて多様に異なる文化の存在を認めさせ、またそれらを人類共通の財産とみなす思考を育むことで、互いの無理解から生まれる争いを防ぐことに

あるのだ。すなわち望まれることは、より多くの地域に、さらに一地域の中でもより多様な人々に展覧会を届けることである。そこでユネスコは、パリ本部から巡回先への運搬費用を負担するという処遇を施して加盟国の参加を促した。加えて展示場所には美術館のみならず学校や文化施設、労働者が利用する食堂を提案している<sup>8</sup>。

展示用につくられた複製画群は、その巡回の最終地点において状態が劣化していた場合などには、パリへ返送する代わりに廉価で購入することも可能であった。売却先としてユネスコは、教育機関、文化施設、政府や民間団体を想定しており、売却によって得た収入は、次回以降の複製画製作費に充てられた<sup>9</sup>。購入国にとっては複製画を永きにわたって活用できることになり、ユネスコにとっては展示運営を続けるための経済サイクルを構築できる効率的な仕組みだ。

しかしながら本複製画巡回展シリーズは1990年の第17回目を最後に、他の企画に集中するという理由により終止符を打たれることとなる<sup>10</sup>。その41年に及ぶ展示活動の中で、複製画巡回展は浮世絵からアフリカ美術、イスラム美術なども特集し、特色ある地域芸術を他地域に紹介する役割を担った〔表1〕。昨今のようにインターネットなどの通信技術が発達しておらず、個人が海外の文化に直接アクセスすることが容易ではなかった環境において、一般市民の異文化接触到大きく寄与した企画であったと言える。

## 2. 生誕500年記念レオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画展について

レオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画展は複製画世界巡回展シリーズの第三回にあたるもので、レオナルドの生誕500年を記念して1951年12月に組織された。1952年1月には「レオナルド・ダ・ヴィンチ、ユネスコ世界巡回展覧会のための図版選択委員会<sup>11</sup>」として、アンドレ・シャステル（André Chastel, 1912-1990）、アーサー・E・ポファム（Arthur E. Popham, 1889-1970）、ピエトロ・トスカ（Giovanni Pietro Toesca, 1877-1962）、リオネッロ・ヴェントゥーリ（Lionello Venturi, 1885-1961）といった美術史界の重鎮が召集されている<sup>12</sup>。本展に使用されている複製画は展覧会用に改めて誂えられたものではなく、ヴィンチアーナ委員会によって編集された書籍<sup>13</sup>に図版として付属していた複製画を転用したものだ。その約300種にのぼる図版から、委員による3日間の選定期間を経て、エキシビションA、B、Cといった3種類の複製画コレクションが組み直されたのである。それら3種類の複製画群はそれぞれ15組ずつ、計45セットローマで制作され、その後パリで額装されたという<sup>14</sup>。各エキシビションの内容に大きな差はなく、重複する作品も多い。現存するカタログから、エキシビションAは157枚、Bは157枚、Cは150枚の複製画が、それぞれ86フレームに収められていたことが確認でき、駒場博物館に所蔵されているものはエキシビションBにあたる<sup>15</sup>。当時の額を含めた大きさは52cm×37cmで、86点すべて合わせても73 kilogramsの重さという手軽さであった<sup>16</sup>。パリから巡回先への運送費用はユネスコが負担し、各加盟国は保険料の300ドルと国内巡回費用、および次の巡回国への運送費を負担すれば、本展の巡回を希望できた<sup>17</sup>。1952年5月当時、既に17セットのエキシビションがパリから世界に向けて発っており<sup>18</sup>、7月末の時点で45セット全ての発送が済んだ後<sup>19</sup>、1956年までの時点で51カ国に回ったと記録されている<sup>20</sup>。

展覧会にあたってアーサー・ポファムにより制作された公式カタログは、エキシビションA、B、C共通の解説文と各展示内容にあわせた出品目録から成る、20ページほどの小冊子となっている<sup>21</sup>。解説によれば、本複製画コレクションは4つのグループに分けられており、各グループ内は主題ごとに並べられている部分もあるが、大抵の場合は制作年代順に並べられているという。

第1グループはレオナルドの晩年の自画像を除いて、フィレンツェ初期滞在期に制作された作品によって構成されている。聖母像や東方三賢者の礼拝のための下絵素描や、そのような主題に関連する馬など動物のスケッチ等が見られる。第2グループには女性の肖像や衣裳のスケッチが多数含まれている。とくに《聖母子と聖アンナ》の細部を描きとめた素描下絵が繰り返し登場し、ひとつの主題に対して構図を深く吟味するレオナルドの姿勢が窺える。第3グループは《最後の晩餐》をはじめとする円熟期の作品下絵や、《スフォルツァ

騎馬像》、《トリブルツィオ騎馬像》、《アンギアーリの戦い》に関連した騎馬像や馬の習作、人体解剖や比例の研究の軌跡としてのスケッチ、そして災害の様子を捉えた素描作品から成る。最後に第4グループには、寓意画や風刺の意味が込められた図像、及び軍事工学者としての側面をよく示す戦争機械の設計図などが選ばれている。

これらの選定内容を概観して分かることは、その内容が名画の下絵はもちろん、科学的及び工学的探究の痕跡としてのスケッチにも広く及んでいる点である。多様な素描作品を通じて示されているのは、名画を生み出した画家としての顔に限らず、解剖学や比例の探究を試みた研究者としての姿、自然の形や動きに傾注した観察者としての姿勢、軍事機械や建築物の設計に携わった工学者としての側面にまで渡る。それは選定者たちの間に、レオナルドを通して人文主義者の理想像を観者に提供したいという意図があったためである。レオナルド特集が組まれた1952年4月発行のユネスコ機関誌『Courier』において、レオナルドは知性ある人間の模範として足る人物であると讃えられており、ユネスコがレオナルドや彼の作品によって良き人文主義者のイメージを人々に提示したかったことを、窺い知ることができる<sup>22</sup>。

さらに、当時のユネスコ事務局長ハイメ・トレス・ボデー（Jaime Torres Bodet, 1902-1974）は、世界中の異なる地域に生きる人々が同じようにレオナルドに興味を刺激されるということは、人々の間に知的及び倫理的な共通点があるということだと述べ、レオナルドの作品を鑑賞することは、人類共有の理想像を目にすることにあたるとも説いた<sup>23</sup>。ここには先に述べたように、異なる文化間にも共通の財産や共に目指すべき理想像があり、それを複製画によって学ぶことが可能であるという思想が反映されている。当複製画コレクションの背後にある思想には、大戦直後の反省と、その反動としての理想が常に透けて見えるのである。

### 3. 日本への巡回

#### a. 巡回までの経緯と展示運営の実際

ユネスコは戦後日本が初めて加盟した国連機関である。加盟は1951年7月に果たされたが、これは国際連合への加盟（1956年12月）に5年も先立つ出来事であり、さらには連合軍側と第二次世界大戦を終結させるために結ばれた「日本国との平和条約」（1951年9月）にも先んじている。ユネスコへの加盟は戦後の退廃した日本社会が国際社会の一員となる第一歩に位置していたのである。

正式名称を「国際連合教育科学文化機関（United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization）」とするユネスコは、第二次世界大戦直後の1945年11月にロンドンで開催された連合国教育文化会議を経て誕生した。その場に参集した国連加盟44カ国代表によって採択されたユネスコ憲章は翌年11月に発効され、2014年2月現在は195の加盟国と9の準加盟地域により構成されている<sup>24</sup>。日本は60番目の加盟国であるが、その参加経緯は世界でも稀な出発点をもつ。というのも、日本政府がユネスコに加盟する4年も前の1947年7月に、ユネスコの活動に共鳴した市民により仙台で世界初の民間ユネスコ団体が発足されたのだ。それに続いて京都、奈良、神戸でも協力が発足するなど運動は草の根的に広まり、1948年5月には「日本ユネスコ協力会連盟」が結成されるに至った。1951年7月にユネスコへ正式加盟を果たし政府の管轄で「日本ユネスコ国内委員会」が発足した後、「協力会連盟」は「日本ユネスコ協会連盟」へと改組して存続し、現在も文部科学省下の「日本ユネスコ国内委員会」と共存している。

政府としての加盟以前に民間レベルの運動が盛んとなり、日本とユネスコの結びつきが先んじて確立されていたという状況は、複製画巡回展の日本招致に少なからず良い影響をもたらしたとすることができるだろう。というのも、複製画展の日本巡回がユネスコから提案され準備が始められたのは、正式加盟以前に遡るためである。

1951年5月、当時千代田区にあったユネスコ支局を通じてユネスコパリ本部から外務省へ手紙が届く。それは資金不足により仕方なく見送っていた第1回及び第2回複製画巡回展の日本巡回を実現する見込みがあったという知らせであった<sup>25</sup>。それを受け外務省はユネスコ協力会連盟も含めユネスコパリ本部との間で貸借



時期や保険料などについての話し合いを長期に渡って続け、巡回展を待ち望んだ。しかし1952年2月末、日本に巡回予定であった複製画セットが他国の利用との兼ね合いから使用不可能となり、日本巡回は結局見送られるという結末を迎える<sup>26</sup>。

一方、その直前にあたる1952年2月中旬、第三回複製画巡回展レオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画展開催の予告通知がパリのユネスコから外務省に届いていた<sup>27</sup>。そこで先の複製画展巡回が延期となった代わりに、レオナルド展こそは優先的に日本へ巡回させたいと願う意気込みのもと、レオナルド展開催の希望書は真っ先にユネスコへ送られた<sup>28 29</sup>。さらに全国にくまなく巡回させるために、当初先方が提案した6か月の貸借期間を1年に延ばす要望も追って提出したのである<sup>30</sup>。ユネスコ側は貸借期間の延長を許可して迅速な対応を行い、1952年6月11日にはPitt & Scott社を通じて複製画コレクションをパリから発送している<sup>31</sup>。それらはマルセイユを經由して7月に横浜に到着したが、税関手続きに時間を要し、ユネスコ協会連盟の手に渡ったのはようやく10月16日になってのことであった<sup>32 33</sup>。

このようにして実現された日本におけるレオナルド展は、1952年12月17日から佐賀県での展示を皮切りに、1953年11月21日に神奈川県小田原での展示を終えるまで、約1年をかけ60か所を巡って開催された〔表2〕<sup>34</sup>。日本ユネスコ協会連盟、日本ユネスコ国内委員会、毎日新聞社の共同主催で行われ、地域によっては図書館、大学、美術家協会の後援も受けている<sup>35</sup>。巡回地間の運送は日本通運株式会社がやり、受け入れや発送の担当窓口は各開催地の都道府県教育委員会社会教育課とされた<sup>36</sup>。

展示物には86点の複製画に添えて、題名と所蔵先が掲載されたキャプションカード、及び日本ユネスコ国内委員会事務局が専門家と相談して付け加えた参考品22点が用意され、ひとつの箱に詰められて全国を巡った。複製画は当時プラスチック板を張った白い額に収められ、壁掛け用に直径15mmほどの金属が布テープで付されていたようである。現在当館では複製画を新しく、各サイズに合わせて窓抜きされた中性紙のマウントボードに挟み込んで保管し、旧台紙は別置しているが、白い額は紛失している。旧台紙裏には金属の輪がついているものが複数点確認され、壁掛け用の金属部品とはこれを指していると考えられる〔fig.1〕。参考品がどのようなものであったかは不明だが、それらは複製素描画の台紙と同じ大きさの台紙19枚に説明書きとともに貼ってあり、四隅には鳩目が付けられているとの記録があるため、弘前会場や熊本会場の記録写真に共通して観察できる展示物がそれらに該当する可能性はある。〔fig.2, 3〕。

ユネスコ本部によって作られた展覧会カタログは和訳され、日本ユネスコ国内委員会事務局のはしがきと、摩寿意善郎（当時東京藝術大学教授、1911-1977）の解説「レオナルド・ダ・ヴィンチの生涯と業績」を加



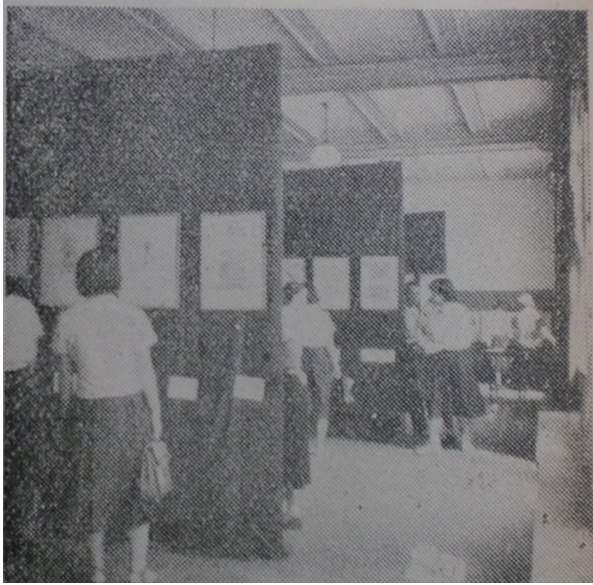
〔fig.1〕 当館所蔵《レオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画》旧台紙裏 (55-19-59).



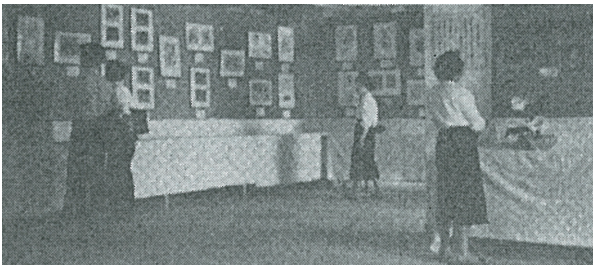
〔fig.2〕 複製画巡回展・弘前会場 (かくは百貨店).



〔fig.3〕 複製画巡回展・熊本会場 (鶴屋百貨店).



〔fig.5〕複製画巡回展・金沢会場（西町中央公民館）.



〔fig.6〕複製画巡回展・熱海会場（熱海市観光会館）.



〔fig.7〕複製画巡回展・山梨会場（県立高校もしくは県立図書館）.



〔fig.8〕複製画巡回展・福井会場（福井市繊維協会ビル3階 / 福井県医師会館）.

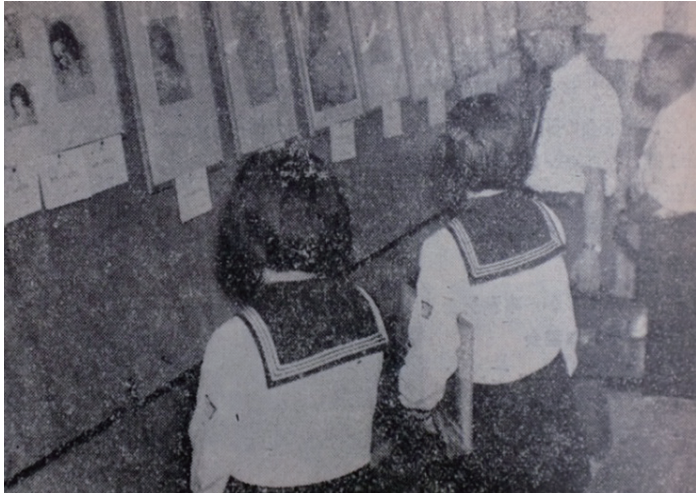
えた日本版として、各開催地へポスター〔fig.4〕と共に配布された。カタログは現存しているもので2種類確認されており、一つは石川県教育委員会と日本ユネスコ国内委員会が共同で作成したと思われる青い無地の表紙を持つもの<sup>37</sup>、



〔fig.4〕複製画巡回展ポスター.

もう一つは、レオナルドの女性頭部のデッサンを表紙にあしらったものである<sup>38</sup>。後者はものにより表紙のデザインや広告掲載の有無に微妙な違いが確認されるが、それらすべて、及び前者の青無地表紙の版においても、目次や本文内容は同じである。

会場は、当初ユネスコ側から提案のあったように美術館施設に限らず選ばれた〔表2〕。例えば福岡市での展示が岩田屋の8階ホールで行われたように、百貨店を会場とした例が20件と最も多い。次に多いのが図書館で13件、他には学校や公民館、公会堂も用いられた。美術館施設を会場とした例は、神戸市立美術館、諏訪市美術館、山形市美術ホールの3件にとどまる。そのため展示方法にも各会場の広さや条件によって大幅なばらつきがあり、展示風景は各地で大きく異なる。例えば人の目の高さで壁1列に作品を並列する余裕に恵まれた会場がある一方で、壁面積の少ない会場では、金沢会場のように仮設壁を設けて展したり〔fig.5〕、弘前会場、熊本会場や熱海会場のよう2列陳列にして展示スペース不足に対応していたようだ〔fig.2, 3, 6〕。ちなみに弘前会場は、予定より複製画の到着が遅れたために展示開始日の朝に陳列作業を行わなければならなかったというエピソードがある<sup>39</sup>。さらに展示壁のスペースが不十分で仮設壁の設置も難しい会場などでは、机の上に複製画を立てて置いたり〔fig.7〕、横置きにして上から覗き込んでもらう方法を採用した〔fig.8〕。また、キャプションが額に釘止めされている札幌会場の写真は、壁に穴をあけることができないという設営上の制限があったのかもしれないという想像をかきたてる〔fig.9〕。各会場が、決して絵を展示するために設計されたわけではない空



〔fig.9〕複製画巡回展・札幌会場（札幌市道立図書館）。



〔fig.10〕複製画巡回展・浜松会場（浜松市立図書館）。

間のなかで、複製画の扱いやすさを活かしてできる限りの工夫をしていたことが窺い知れる。展示を記録した写真のなかには学生が展示作業に加わっている様子が撮影されているものもあるが、専門家でない学生に作業を通して絵に親しむ機会を提供できる点も、複製画ならではの利点であると言えよう〔fig.10〕。

なお、原則として入場は無料のはずであったが、会場によっては入場料が徴収されていた。鳥取会場では一般 20 円、学生 10 円、中学生団体 5 円の入場料を設け<sup>40</sup>、福島会場では会場整理費として 10 円を徴収している<sup>41</sup>。複製画展覧会の招致を続けるには資金面で困難があるという悩みが『ユネスコ通信』に寄せられていたことから、運営状況を鑑みると入場料を設定せざるを得なかったのだろう<sup>42</sup>。ちなみに単純比較はできないが、20 円とは、2014 年 2 月現在常設展観覧料を 500 円前後<sup>43</sup>としている国立博物館<sup>44</sup>が、1953 年当時常設展の大人観覧料に設定していた額と同等である。

## b. 展覧の様子

展覧会が当時どのように人々に受け入れられたかを記録した資料は決して多くはないが、ユネスコ協会連盟の機関誌『ユネスコ通信』に掲載された報告記事や当時の新聞記事は、展覧会が各地で大盛況を収めた様子を伝えている<sup>45</sup>。大会場のように早朝から観覧者が「どっと押しかけ<sup>46</sup>」た会場があれば、弘前会場のように「閉会後も多くの観覧者がつめかけ<sup>47</sup>」たり、青森会場のように「閉会後もなお観覧者がつづき申し訳なかった<sup>48</sup>」ほどの開催地もあった。熱海会場では観客が「一日中、あとをたたない状況で、とくに学生団体の



〔fig.11〕複製画巡回展・横浜会場（横浜市立図書館）。

参観の場合は、前の団体が終わるまで次の団体は場外で待ってもらおう<sup>49</sup>」必要があったと、大変な混雑ぶりが報告されている。参観者のなかでも小学生から高校生までの学生団体客が目立ち<sup>50</sup>、なかには改めて見直しに来るほど熱心な学生もいたようだ<sup>51</sup>〔fig.11〕。今治会場にいたっては「解説書も足りないくらいの盛況」で、「とくに 2 日目の午後にはどっと入場者がつめかけ、止むなく入場を一時中止して、5 名の事務員が観客整理に大奮。汗ぐっしょりになるという嬉しい風景も見られた。午後 5 時が来ても観客はへらず、表看板をとっても「お願いします」と押しかける始末。漸く荷造り



〔fig.12〕複製画巡回展・今治会場（今治市林業会館）。



〔fig.13〕複製画巡回展入口・今治会場。

内容となっている<sup>53</sup>。なお、日伊協会から出品された参考品は62点あり、《東方三王礼拝図》や《受胎告知》、《岩窟の聖母》といった名画やその習作の複製などが含まれている<sup>54</sup>。開場前の展示場記録写真を見ると、解説パネルのようなボードや複製画がぎっしりと壁に並べられ、ガラスケースも用いられた充実した展示内容であるが、空間は広々と確保されている〔fig.14, 15〕。

しかしひとたび会期が始まると、そこは子どもから大人まで、驚くほどの観客で溢れかえった〔fig.16〕。美術史家による会場での展示解説も数回にわたって行われたが、拡声器を用いなければならないほど多くの聴衆が詰めかけたという〔fig.17〕。17日（水）15:00には富永惣一（当時学習院大学

をすましたのは午後9時ごろであった。」との興奮冷めやらぬ報告が寄せられている〔fig.12, 13〕<sup>52</sup>。開催地60か所の合計入場者数は31万人にのぼり、開催日の合計183日で単純に計算すると平均で1日に約1700人の来場者があったことになる。当然、1日の平均来場者数は各会場によって大きな差があり、最も多い順に東京会場で10500人、新潟会場で6000人、萩会場で4750人、最も少ない順に函館会場で125人、徳島会場で175人、帯広会場で200人となっている〔表2〕。

最も来場者の多かった東京巡回は日本橋三越本店を会場とし、1953年6月16日から21日まで開かれた。日本ユネスコ協会連盟、日本ユネスコ国内委員会、毎日新聞社のほかに、東京都教育委員会や日伊協会が共催に加わった。展示内容にも追加があり、予め巡回用に用意されていたセットに加えて、東京芸術大学や東京大学、日伊協会から提供された参考作品としての複製画100点（額80枚）、レオナルド研究図書（洋書50点、和書10点）、レオナルドの彫刻作品の写真2点、児島喜久雄の模写作品2点が盛り込まれた豪華な



〔fig.14〕複製画巡回展・東京会場（日本橋三越本店）。



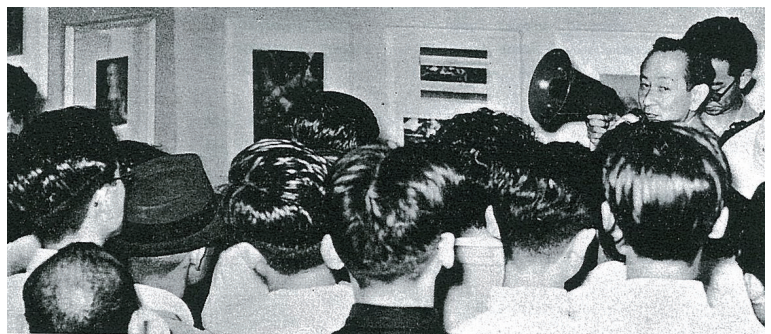
〔fig.15〕複製画巡回展・東京会場（日本橋三越本店）。

教授、1902-1980)、18日(木)と20日(土)14:00には三輪福松(当時東京大学助教授、1911-1998)、21日(日)14:00には展覧会カタログにも寄稿している摩寿意善郎による作品解説が行われた。写真〔fig.17〕は富永惣一の解説時の様子を写したものであるため6月17日(水)に撮影されたものであることがわかるが、平日の日中であるにも関わらずこれほどの混雑状況であったことを鑑みると、週末にはさらに多くの観衆で賑わったことが想像される。



〔fig.16〕複製画巡回展・東京会場(日本橋三越本店).

さらに、展覧会に先立つ6月13日(土)には、有楽町にある毎日新聞社講堂にて『レオナルド生誕五百年記念講演会』が催された。内容は摩寿意善郎による「レオナルドの時代と生涯」、富永惣一による「レオナルド・ダ・ヴィンチの芸術」、山田智三郎(当時共立女子大学教授、1908-1984)による「レオナルドの三王礼拝と最後の晩餐」の



〔fig.17〕富永惣一氏による作品解説・東京会場(日本橋三越本店).

3本立てで、日伊協会の主催で開催された。詳しい記録は残っていないが、日伊協会は本講演会を、戦後再開された文化普及事業の中でも「特に注目すべき」講演会であったと振り返っている<sup>55</sup>。このように会場で作品解説を行うことや各種団体と協力して展覧会を盛り上げることはユネスコパリ本部からも推奨されていたため、東京以外の開催地においてもそれぞれの工夫があった。確認できた限りの各地での関連イベント一覧は、〔表3〕にまとめた通りである。

### c. 人々の反応と開催の意義

開催地各地から『ユネスコ通信』紙面に報告された展示後の感想は様々で、素描画は知識層向けで一般参観者には理解が難しかったという意見があれば<sup>56</sup>、会期の短さを嘆く声もあった<sup>57</sup>。そのなかでとりわけ興味深いのは、1953年当時の日本において本展が開催されたことが持つ意義にまで言及した、下記新聞記事である：

(…)戦時中すっかり閉ざされた海外との文化交流がこのほどようやく活発になり、過日弘前と青森で開催された「レオナルド・ダ・ヴィンチ」展はユネスコ協会の催しとして稀に見る充実した画展であった。(…)デッサンの前に佇んで嘆息していた某画家の嘆きを聞くにつけ、文化の国際交換は孤独時代のおくれをとるもどすためにも、もっと盛んにさせたいもの(東奥新聞)<sup>58</sup>

これは当時の人々にとってレオナルド・ダ・ヴィンチ複製画巡回展が、単に娯楽としての魅力を持つ以上の出来事であったことを言い表している。レオナルド展の全国巡回は、戦時下とは違う、国際社会の一員としての日本の新たな一歩を感じさせる出来事であったのだ。

しかしながらここで、レオナルド・ダ・ヴィンチを通じた文化交流という観点から言えば、それは実のところ戦時中にこそ活発に行われていたという事実に注目することは、本巡回展のもう一つの重要性を浮き立

たせるために有益だ。とくに 1940 年代前半はレオナルド関連の書籍や論文が日本で大量に出版された時期であったが、そうした事象は、戦車や兵器なども設計したレオナルドの技術者としての側面に焦点を当て、イタリアとの同盟関係を強調したいという日本の政治的思惑によってもたらされたものであった<sup>59</sup>。そのような戦時中の流行現象は、ユネスコ複製画巡回展について感想を述べた新聞記事のひとつにも記録されている。

戦時中は日伊独スー軸文化を讃える意味で、彼などは大いにもてはやされ、大がかりな展覧会がひらかれたりもした。ダヴィンチについてその当時の記憶しかないものは、彼を造兵や築城の大家だと思っているものがあるかもしれない。戦時中のダヴィンチ熱が、彼の技術的な才能や発明家的な素質に、必要以上にスポットライトをあて過ぎたのはいわゆる国策だったからである。<sup>60</sup>

上記中の「大がかりな展覧会」とは、1942年に上野の池ノ端産業館で開催された「アジア復興 レオナルド・ダ・ヴィンチ展覧会」のことを指すと考えられる。それは 1939年にファシスト党政権下のイタリアで国家的事業として行われた「レオナルド・ダ・ヴィンチ展覧会<sup>61</sup>」を基に、「アジア復興」という冠を日本側が新たに付して、陸軍省などを後援に日本世界文化復興会が主催した展覧会である<sup>62</sup>。坂倉準三事務所により設計された会場に、レオナルドのデッサンに基づいて復元された飛行機や兵器など、戦争工学関係を中心とした展示が構成された [fig.18]。「アジア復興」という追加タイトルには、東洋文化を吸収することにより西欧近代を形成したレオナルドを手本に、今度は日本が逆に、行き詰った近代西欧文明を乗り越え東洋文化中心の世界秩序を創り始めるのだ、という意味合いが込められている<sup>63</sup>。つまりここではレオナルドが、東西を統一したうえでアジア中心の新たな世界を牽引する、日本のセルフイメージの拠り所とされていることが分かる。

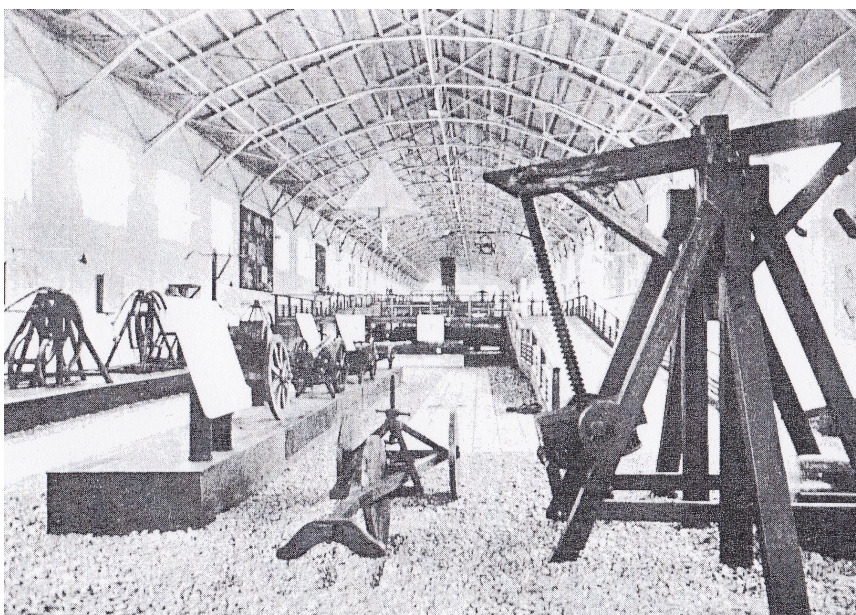
これに対し、ユネスコがレオナルド展を主催した 1952 年はそれから 10 年後にあたるが、レオナルドやその作品群は新聞記者により以下のような言葉で捉えられている。

この世界的な文化遺産は観衆に歴史と民族をこえた芸術的共感を与えてやまないものと確信する。<sup>64</sup>

ここにおいてレオナルドは、歴史的価値観や政治的立場から自由に人の心を動かす芸術の中立的・平和的イメージを担わされており、翻ってレオナルドの作品には、人類が様々な差異を乗り越え共感し合う可能性に満ちているという希望が投影されているとも言えよう。ここには、芸術家やその作品の持つ意味が、時代の要請

に応じていかようにも読み替えられるという具体例を見てとれる。

本展覧会が 1950 年代初頭という時期に日本で開催されたことの意義とは、戦後の日本における文化復興の兆しを人々の心にもたらしたことだけではなく、日本におけるレオナルド・ダ・ヴィンチの受容史的観点から見て重要な転換期の一端を担ったことでもあると言えるだろう。



[fig.18] アジア復興 レオナルド・ダ・ヴィンチ展会場・上野池ノ端産業館。

#### 4. 駒場へ

全国で広く鑑賞されたレオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画が当館の所蔵に至った経緯は、学内に残された受入記録が皆無に等しく不明瞭な状況が続いていた。1970年代以降の学内広報紙に「ユネスコから贈られた<sup>65</sup>」複製画、「ユネスコの好意<sup>66</sup>」による入手、との説明が繰り返されていることと、博物館の所蔵品目録カードの寄贈項目に丸印がつけてあることのみが複製画の過去を語る記録であった。そのため本複製画は漠然と、1953年頃に何がしかの縁がありユネスコから寄贈されたものである、という見解のもとに放置されてきた。ところがこのほどユネスコ本部のアーカイブ及び外務省外交史料館に所蔵されている資料の調査を通じて、本複製画は購入により当館の所蔵に至った事実が明らかとなった。

複製画の購入は先述の通り、巡回展終了後の作品の取り扱い方として設定されていた選択肢のひとつであり、本展に関しては巡回展開催前にあたる1952年10月の段階で、280ドルの価格で購入可能な旨を告げる手紙がユネスコから届いていた<sup>67</sup>。しかし巡回当初日本側は複製画を返還するつもりであり、火災、地震、風水害、盗難等に対応する総額15万6千円の保険に加入したうえで、作品は返却するので大切に扱うようにと関係者向け配布物において指南している<sup>68</sup>。ところが全国巡回の終了まで残すところ約1か月半となる1953年9月半ば、当時の東京大学教養学部長高木貞一から外務省情報文化局の林馨に宛てて、以下のような手紙が送付されている。

展覧会終了後は、東京大学教養学部にて購入いたし、當学部所属の美術博物館にそなえつけ、永く美術教育の用に資とすることにいたしました。ただ當学部におきましては購入予算も潤澤でありませぬので、できるだけ、価格の安いことを望んでおります。<sup>69</sup>

つまり展覧会終了を控えた1953年9月には、東京大学教養学部が大学博物館に常設することを前提とし、教育に用いることを目的として購入する旨が決定されていたのだ。東京大学教養学部が購入先として名乗り出た背景にはユネスコ協会連盟の斡旋があったという<sup>70</sup>。その理由や経緯について詳細は不明であるが、この手紙を受けて以降、外務省、在フランス日本大使、ユネスコ本部との間で交渉がはかられ、その結果複製画は210ドルに値引きされた額で東京大学に購入されることとなった<sup>71</sup>。

東京大学は支払いにユネスコ・ブッククーポンという、海外からの書籍購入費用に充てられるユネスコ版世界通貨のような切手を用いたようで、日本円にして75000円相当のクーポンが支払われた<sup>72</sup>。本学における当複製画の展示は、全国巡回を終えてからほどない1953年12月12日と13日の両日、まだ陳列室を持たぬ美術博物館委員会が教養学部旧第二本館<sup>73</sup>で開催した「第五回美術展覧会：琉球文化とダ・ヴィンチ複製展<sup>74</sup>」を初めとし、それから間もなく発行された『教養学部報』には既に、本複製画が「最近、本学美術博物館の所蔵になった<sup>75</sup>」といった報告がなされている。しかし実は、クーポンをユネスコへ送付する際に送付状を付け忘れたために、受け取り側が正体不明のクーポンとして日本へ送り返してしまったり、再度発送したところ今度は宛先に誤りがあったりと不手際が連続したために<sup>76</sup>、正式にクーポンが受理され購入手続きが完了したのはようやく1954年11月になってのことであった<sup>77</sup>。

駒場博物館はレオナルドの複製画を受け入れた当初展示室を持っていなかったが、その後1958年に旧第二本館（現2号館、12号館、13号館、14号館周辺）4階に陳列室を得るに至り<sup>78</sup>、1962年6月からは公開体制が整えられた<sup>79</sup>。公開日は金曜日と土曜日の週二回に限られていたが、常連の学生や評判を聞いた外部の参列者が閲覧に訪れていたという<sup>80</sup>。その間レオナルドの複製画を用いた企画展は催されなかったものの、模写をしたいと希望する閲覧者が訪れることもあったようだ<sup>81</sup>。複製画が大々的に公開されてはいなかったにせよ、ただ倉庫で眠っていたのではなく利用者に活用されていたことを教えてくれる記録である。

それから約10年経った1971年、現駒場博物館の建物にあたる旧制第一高等学校図書館の内部が二階建てに改装され、その二階部分に美術博物館があてがわれた。週3日の平常展示が開始されたのは1972年6月



〔fig.19〕レオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画展会場・東京大学駒場博物館。



〔fig.20〕レオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画展会場・東京大学駒場博物館。

のことであったが、その際平常展の皮切りとなった展示が、レオナルドの複製素描画と、購入して間もないレオナルドの『アトランティコ手稿（複製）』をあわせて展覧に供する「レオナルド・ダ・ヴィンチの素描と手稿（複製）展」であった<sup>82</sup>。これに合わせて、講演会「わが国におけるレオナルド研究の草創の頃の思い出」（講師：杉浦明平）も催された。またさらに翌年の1973年11月、「第二回レオナルド・ダ・ヴィンチ展」と題された展覧会が催されたと思われる、展示内容は不明であるものの、美術博物館ニュースの記念すべき第一号の特集を飾っている<sup>83</sup>。

そして2003年11月には、博物館の建物が全面改修され、教務課の入っていた1階部分が美術博物館に、それまで美術博物館が入っていた2階部分は自然科学博物館となり、現在の駒場博物館の姿が完成する。現体制になってからも、レオナルドの複製画を用いた展覧会は度々開催されてきた。まず2004年8月2日（月）から9月17日（金）にかけて『レオナルド・ダ・ヴィンチの複製素描画Ⅰ・Ⅱ』が、次に2005年2月21日（月）から4月22日（金）

にかけて『レオナルド・ダ・ヴィンチの複製素描画Ⅲ』が、そして2006年1月23日（月）から3月10日（金）にかけて『レオナルド・ダ・ヴィンチの複製素描画Ⅳ』が、シリーズ展示として行われた。また、2010年から2011年にかけては86点すべてのコレクションを一挙に公開する『レオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画』展〔fig.19, 20〕が実現した。本展は静岡文化芸術大学との共催で<sup>84</sup>、静岡会場においては、研究者やアーティストを交えた記念シンポジウムも開催されるに至った<sup>85</sup>。

以上のように駒場博物館は1951年3月に設立委員会が発足して以来、学内で運営場所や組織形態を徐々に変えながら現在に至るが、レオナルドの複製素描画コレクションは、常設展示室を持たない時期から現在に至るまで、そのどの段階においても来館者に親しまれてきた貴重な所蔵品のひとつであることが分かる〔表4〕。本複製画の展覧歴を追うことは同時に、博物館のあゆみを振り返ることであるとも言えよう。そして、定まった館で行われなかったために散逸し消えかかっていた全国巡回の記憶や、時代の様相までもを宿す本複製画は今、単にオリジナル作品のコピーであるという以上の、歴史的な意味と価値を帯びているということに気づかされるのである。



〔表 1〕ユネスコ複製画世界巡回展全 17 回テーマ一覧

	開催年	展覧会名(原タイトル/和訳)
第1回	1949	Paintings from 1860 to Today 1860年から今日までの絵画
第2回	1951	Paintings Prior to 1860 1860年以前の絵画
第3回	1952	Drawings by Leonardo da Vinci レオナルド・ダ・ヴィンチの素描画
第4回	1954	Japanese Woodcuts 日本の浮世絵
第5回	1954	Two Thousand Years of Chinese Painting 中国絵画の2000年
第6回	1956	Persian Miniatures ペルシアの細密画
第7回	1958	Eastern and Western Art's Water Colours 東洋と西洋の水彩画
第8回	1962	Art Accuses War 芸術は戦争を糾弾する
第9回	1964	The Art of Writing 書の芸術
第10回	1972	African Arts アフリカ芸術
第11回	1975	Art of Oceania オセアニアの芸術
第12回	1977	The Arts of Latin America ラテン・アメリカの芸術
第13回	1979	Contemporary Chinese Painting 中国現代絵画
第14回	1984	The Art of Islam イスラムの芸術
第15回	1985	Slav Art スラブ芸術
第16回	1986?	Buddhist Art 仏教芸術
第17回	1990	Celtic Art ケルト芸術

#### 次項〔表 2〕注

##### 開催地について

原則として『ユネスコ通信』第 77 号（1954 年 2 月 20 日発行）の「レオナルド・ダ・ヴィンチ展をかえりみる—全国 60 か所で開催—」を基に作成した。本記事にて「不明」と書かれていた延岡会場と旭川会場については、下記新聞記事を典拠とした。

ダ・ヴィンチ展：宮崎、延岡両市で開く。毎日新聞。1953-01-16, 朝刊, 西部, 宮崎版, p. 6.

日曜文化：ダ・ヴィンチ展。毎日新聞。1953-01-18, 朝刊, 西部, 宮崎版, p. 6.

短信：ダ・ヴィンチ展。宮崎日向日日新聞。1953-01-22, 朝刊, p. 4.

ユネスコ世界巡回展：レオナルド・ダ・ヴィンチ展—生誕五百年記念—。毎日新聞。1953-08-05, 朝刊, 北海道版, p. 8.

\*『ユネスコ通信』第 74 号（1954 年 1 月 5 日発行）347 頁に「1953 年 11 月 21 日小田原にいたるまで全国 60 か所に開催」と書いてあり、日本ユネスコ協会書記長中村誠司氏からユネスコパリ文化活動局長ジェーン・トマス氏への報告書に添付された開催地地図上（1953 年 12 月 17 日付）にも最後の開催地として小田原が印づけられているが、「レオナルド・ダ・ヴィンチ展をかえりみる」『ユネスコ通信』第 77 号（1954 年 2 月 20 日発行）、および日本ユネスコ国内委員会事務局次長釘本久春氏からユネスコパリ文化活動局長ジェーン・トマス氏への報告書（1953 年 12 月 4 日付）には小田原が掲載されていない。

##### 開催期間について

原則として『ユネスコ通信』第 77 号（1954 年 2 月 20 日発行）の「レオナルド・ダ・ヴィンチ展をかえりみる—全国 60 か所で開催—」を基に作成した。ただし、『ユネスコ通信』の他の号や新聞に個々の展覧会の詳細を報告する記事が掲載されており、そこに異なる日程が報告されている場合、個々の記事で書かれている日程を採用した。

##### 観客数について

原則として『ユネスコ通信』第 77 号（1954 年 2 月 20 日発行）の「レオナルド・ダ・ヴィンチ展をかえりみる—全国 60 か所で開催—」を基に作成した。ただし、『ユネスコ通信』の他の号に個々の展覧会の詳細を報告する記事が掲載されており、そこに掲載されている観客数と『ユネスコ通信』第 77 号の記述が著しく異なる（100 人以上の差がある）場合、個々の記事で書かれている数値を採用した。

##### 一日平均観客数について

小数点以下は四捨五入した。

[表2] 生誕500年記念レオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画展 国内巡回先一覧

都市名	都道府県名	会場	開催年	開催期間	観客者数	開催日数	観客者数/日
佐賀	佐賀県	佐賀市商工会議所	1952年	12月17日-12月20日	2000	4	500
長崎	長崎県	長崎商工会議所		12月24日-12月27日	1943	4	486
熊本	熊本県	鶴屋百貨店ホール	1953年	1月5日-1月8日	8000	4	2000
鹿児島	鹿児島県	山形屋百貨店		1月13日-1月15日	6600	3	2200
宮崎	宮崎県	山形屋デパート宮崎支店		1月17日-20日	3500	4	875
延岡	宮崎県	延岡市中央公民館		1月22日-1月23日	不明	2	不明
大分	大分県	大分市トキハ百貨店		1月27日-1月28日	2700	2	1350
小倉	福岡県	井筒屋デパート		1月30日-2月1日	7000	3	2333
福岡	福岡県	岩田屋デパート		2月3日-2月8日	15000	6	2500
下関	山口県	市民公民館		2月10日-2月11日	8000	2	4000
山口	山口県	山口県教育会館		2月13日-2月14日	1657	2	829
萩	山口県	萩公民館		2月16日-2月17日	9500	2	4750
松江	島根県	松江市公会堂		2月19日-2月20日	4000	2	2000
鳥取	鳥取県	県立鳥取図書館		2月25日-2月27日	5000	3	1667
岡山	岡山県	岡山市天満屋デパート		3月2日-3月4日	2259	3	753
広島	広島県	広島アメリカ文化センター		3月8日-3月11日	1482	4	371
今治	愛媛県	今治市林業会館		3月18日-3月19日	2600	2	1300
高松	香川県	高松三越支店		3月22日-3月25日	3120	4	780
徳島	徳島県	徳島市立図書館		3月29日-4月1日	700	4	175
高知	高知県	高知市中央公民館		4月4日-4月6日	1864	3	621
神戸	兵庫県	神戸市立美術館		4月12日-4月14日	1050	3	350
大阪	大阪府	近鉄百貨店7階画廊		4月17日-4月23日	16000	7	2286
和歌山	和歌山県	和歌山県立図書館		4月25日-4月29日	7800	5	1560
奈良	奈良県	奈良市庁会議室		5月2日-5月5日	3900	4	975
津	三重県	県立図書館講堂		5月9日-5月11日	1000	3	333
京都	京都府	大丸京都支店		5月15日-5月17日	4000	3	1333
彦根	滋賀県	彦根市立西中学校		5月20日-5月22日	4500	3	1500
岐阜	岐阜県	岐阜市丸宮百貨店2階画廊		5月24日-5月26日	7300	3	2433
名古屋	愛知県	名古屋市立舞鶴図書館		5月31日-6月2日	1400	3	467
浜松	静岡県	浜松市立図書館		6月5日-6月7日	1700	3	567
熱海	静岡県	熱海市観光会館		6月8日-6月10日	3500	3	1167
横浜	神奈川県	横浜市立図書館		6月12日-6月14日	5762	3	1921
東京	東京都	日本橋三越本店7階画廊		6月16日-6月21日	63000	6	10500
都留	山梨県	南都留郡教育事務所		6月22日	10000	5	2000
大月	山梨県	北都留郡大月町県立都留高校		6月23日			
甲府	山梨県	甲府市県立図書館		6月24日-26日			
諏訪	長野県	諏訪市美術館		6月27日-29日	3200	3	1067
上田	長野県	上田市公民館		7月1日-7月2日	3500	2	1750
北佐久	長野	北佐久郡岩村田小学校		7月3日-7月4日	5000	2	2500
福井	福井県	福井市繊維協会ビル3階(福井県医師会館)		7月10日-7月11日	2300	2	1150
金沢	石川県	金沢市西町中央公民館		7月13日-7月15日	2000	3	667
富山	富山県	富山市大和百貨店ホール		7月18日-7月20日	6000	3	2000
新潟	新潟県	新潟市小林百貨店ギャラリー		7月24日-7月26日	18000	3	6000
秋田	秋田県	秋田市木内百貨店ホール		7月31日-8月1日	2000	2	1000
弘前	青森県	かくは宮川(百貨店)		8月4日-8月5日	2500	2	1250
青森	青森県	青森市富士屋デパート		8月6日	1500	1	1500
函館	北海道	函館市立図書館		8月8日-8月11日	500	4	125
帯広	北海道	帯広市立図書館		8月14日-8月16日	600	3	200
旭川	北海道	丸井百貨店		8月21日-8月23日	8000	3	2667
札幌	北海道	札幌市道立図書館		8月25日-8月27日	1000	3	333
盛岡	岩手県	盛岡市川徳百貨店		9月1日-9月3日	5700	3	1900
仙台	宮城県	仙台市公会堂		9月7日-9月9日	4000	3	1333
山形	山形県	山形市美術ホール		9月11日-9月13日	3500	3	1167
福島	福島県	福島市公会堂		9月17日-9月19日	7200	3	2400
宇都宮	栃木県	宇都宮市県立公会堂		9月21日-9月23日	5500	3	1833
浦和	埼玉県	県立図書館		9月26日-9月28日	2500	3	833
前橋	群馬県	県立図書館		10月1日-10月3日	3700	3	1233
千葉	千葉県	千葉市奈良屋3階		10月12日-10月16日	3500	5	700
館山	千葉県	館山市安房第2高校		10月17日-10月19日	2300	3	767
*小田原	神奈川県	不明		11月21日	不明	1	不明
合計					311837人	183日	平均1704人/日

- …百貨店
- …公会堂・公民館
- …図書館
- …美術館施設
- …学校

\* 前項注参照

[表3] 生誕500年記念レオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画展 各地開催関連イベント一覧

都市名	展覧会開催日	イベント内容
熊本	1953年1月5日-1月8日	毎日数回会場において、熊本女子大学教授、徳永郁介氏、もしくは熊本大学助教授、岡周末氏による作品解説「レオナルドの絵画、業績について」。
大分	1953年1月27日-1月28日	1月25日午後、トキハ百貨店で文化関係者による座談会を開催し、毎日新聞大分版(1月27日)に掲載。
松江	1953年2月19日-2月20日	複製画到着時に鑑賞・座談会。ユネスコ関係者、画家、学校教師、各団体役員計13名が、県在住の洋画家、木村義男氏と、松江放送局長、三井真一氏を囲んで行った。
広島	1953年3月8日-3月11日	3月8日午後2時、広島大学文学部長、渡辺鼎氏による講演会「ルネッサンスとダ・ヴィンチについて」。
今治	1953年3月18日-3月19日	3月6日のユネスコの集い恒例会において、県立西高等学校教官、大槻達二氏による講演会「レオナルド・ダ・ヴィンチとルネッサンス」。
和歌山	1953年4月25日-4月29日	複製画到着日前日4月24日、ユネスコ会員及び画家有識者30人を対象とした鑑賞・座談会。和歌山大学教授、岩崎真澄氏による講演「レオナルド・ダ・ヴィンチの人と芸術」。 4月26日午前、労働会館において記念式。和歌山市長、高垣氏、県教育長、村上氏の挨拶。 同日午後、同講堂で記念講演会。和歌山大学学芸部長、岩崎真澄氏による「レオナルド・ダ・ヴィンチの人と芸術」、大阪大助教授、矢内原伊作氏による「現代フランス文学とユネスコ」、日本ユネスコ協会連盟理事長、勝本清一郎氏による「共産主義的人間と自由主義的人間」。
浜松	1953年6月5日-6月7日	6月7日14時から、市立図書館会議室において、彫刻家(元二科所屬)水野欣三郎氏による講演会「ダ・ヴィンチの生涯と作品について」。
熱海	1953年6月8日-6月10日	6月10日、展覧会場において、ローマ考古学美術史学会会員、ミケランジェロ・ピーア・チェンティーン氏による講演会「ダ・ヴィンチについて」。
甲府	1953年6月24日-6月26日	低学年の子どもでも楽しめるよう、アメリカから国際親善のために贈られた世界児童画650点を同時に展示。 山梨県ユネスコ協会会長、露木寛氏秘蔵の複製画6点(最後の晩餐、モナリザ、他)も併せて展示。
東京	1953年6月16日-6月21日	会期中、会場において作品解説。6月17日15時、学習院大学教授、富永惣一氏。18日と20日14時、東京大学助教授、三輪福松氏。21日14時、東京芸術大学教授、摩寿意善郎氏。 6月13日14時から、有楽町毎日新聞社講堂において、日伊協会主催講演会。摩寿意善郎氏による「レオナルドの時代と生涯」、富永惣一氏による「レオナルド・ダ・ヴィンチの芸術」、山田智三郎氏による「レオナルドの三王礼拝と最後の晩餐」。
北佐久	1953年7月3日-7月4日	会期中、参考品として、東軽井沢居住のフランス人版画家、ポール・ジャクレー氏の版画30点、および県社会課所有の「国際連合に関する写真」15枚を展示。
仙台	1953年9月7日-9月9日	9月8日15時から、市公会堂において、東北大学教授、村田潔氏の記念講演会「ダ・ヴィンチとその作品について」。

〔表 4〕 駒場博物館の歩みとレオナルド複製素描画コレクション展示歴



- 1) 原タイトル: Travelling Exhibition of Reproductions of Works of Art。日本巡回時のカタログ小冊子には「ユネスコ世界巡回展」という邦訳がなされている。
- 2) これに対して、自然科学系の世界巡回展である Travelling Science Exhibition というシリーズも開催されているが、美術作品の複製画を巡回展示する本展とは独立したものである。
- 3) 原タイトル: From Impressionism Till Today
- 4) Colour Reproduction: Unesco's First Travelling Exhibition. The UNESCO Courier. 1949, 2(7), p. 12, cat. no. 74033. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=74033&set=521EFC4B\\_2\\_403&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=74033&set=521EFC4B_2_403&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-22).
- 5) Read, Herbert. Water Colours on a Grand Tour. The UNESCO Courier: A Window Open on the World. 1958, 11(9), p. 26-29, cat. no. 66293. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=66293&set=523EDD78\\_2\\_11&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=66293&set=523EDD78_2_11&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-22).
- 6) Colour Reproduction: Unesco's First Travelling Exhibition. The UNESCO Courier. 1949, 2(7), p.12, cat. no. 74033. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=74033&set=521EFC4B\\_2\\_403&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=74033&set=521EFC4B_2_403&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-22).
- 7) 日本ユネスコ国内委員会. “国際連合教育科学文化機関憲章 (ユネスコ憲章) / The Constitution of UNESCO”. 文部科学省. <http://www.mext.go.jp/unesco/009/001.htm>, (参照 2013-09-22).
- 8) Travelling Exhibitions of Reproductions of Works of Art: Conditions of Transfer to Member States. Paris, 1951, UNESCO, 1951-05-24, 2p, 26 EX/12, cat. no. 162347. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=162347&set=523EE38F\\_1\\_76&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=162347&set=523EE38F_1_76&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-22).
- 9) Travelling Exhibitions of Reproductions of Works of Art: Conditions of Transfer to Member States. Paris, 1951, UNESCO, 1951-05-24, 2p, 26 EX/12, cat. no. 162347. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=162347&set=523EE38F\\_1\\_76&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=162347&set=523EE38F_1_76&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-22).
- 10) Mayor, Federico. “1, A, Major Programme Area 3, Programme 3, 1, 3 Lessons Learnt and Their Future Implications”. Report of the Director-General: 1990-1991. 27th session, 1993, UNESCO, 1992, p. 48, 27 C/3, cat. no. 92295. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=92295&set=523EE598\\_1\\_96&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=92295&set=523EE598_1_96&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-22).
- 11) 原タイトル: Working Party to Select Reproductions of Drawings by Leonardo da Vinci for Unesco Travelling Exhibitions.
- 12) Popham, Arthur E. Rapporteur's report. Paris, 1951, UNESCO, 1952, 1p, CUA/39, cat. no. 127199. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=127199&set=523EEE8F\\_2\\_174&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=127199&set=523EEE8F_2_174&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-22).
- 13) Reale Commissione Vinciana and Venturi, Adolfo. ed. I manoscritti e i Disegni di Leonardo da Vinci. Disegni. Pubblicati dalla Reale Commissione Vinciana sotto gli Auspici del Ministero della Istruzione Pubblica. Rome, Danesi, La Libreria dello Stato. 1928-1952. 7vols. (Disegni 1, 1928. 2, 1930. 3, 1934. 4, 1936. 5, 1939. 6, 1949. 7, 1952.) 及び Baratta, Mario and Reale Commissione Vinciana. ed. I Disegni Geografici di Leonardo da Vinci Conservati nel Castello di Windsor. Rome, La Libreria dello Stato, 1941. 日本国内では国立国会図書館が Disegni 1-7 を所蔵 (請求番号 091-L581m)。また、早稲田大学図書館が Disegni 1-7 (請求記号 F702.3 00104)、及び Disegni Geografici (請求記号 F702.3 00103) を所蔵。
- 14) Torres Bodet, Jaime. Speech: For the Opening of the Travelling Exhibition of Drawing by Leonardo da Vinci. Paris, 1952-05-27, UNESCO, [1952?], 2p, UNESCO/DG/175. available from UNESCO Archives.
- 15) エキシビション A, B, C 全作品目録は、本資料集 p. 221-233 を参照。
- 16) Torres Bodet, Jaime. Jaime Torres Bodet to the Minister for Foreign Affairs: Unesco Travelling Exhibition

- of Reproduction of Drawings by Leonardo da Vinci. [1952-02-14?], 2p, ALC 268572, file 7 A 145.03 (520). available from UNESCO Archives.
- 17) Torres Bodet, Jaime. Jaime Torres Bodet to the Minister for Foreign Affairs: Unesco Travelling Exhibition of Reproduction of Drawings by Leonardo da Vinci. [1952-02-14?], 2p, ALC 268572, file 7 A 145.03 (520). available from UNESCO Archives.
  - 18) Torres Bodet, Jaime. Speech: For the Opening of the Travelling Exhibition of Drawing by Leonardo da Vinci. Paris, 1952-05-27, UNESCO, [1952?], 2p, UNESCO/DG/175. available from UNESCO Archives.
  - 19) トレス・ボデー, ハイメ. ユネスコ活動に関する報告, 序説の部 1951-52 年度. 日本ユネスコ国内委員会, 1954, p. 58.
  - 20) オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ボリビア、ブラジル、ビルマ、カナダ、中国、コロンビア、コスタリカ、キューバ、ドミニカ共和国、エジプト、エルサルバドル、ドイツ、フランス、グアテマラ、ホンジュラス、ハンガリー、インド、インドネシア、イラク、イスラエル、日本、ヨルダン、韓国、ラオス、レバノン、リビア、ルクセンブルク、メキシコ、モナコ、オランダ、ニュージーランド、ニカラグア、ノルウェー、パナマ、ペルー、フィリピン、ポーランド、スペイン、スウェーデン、スイス、タイ、トルコ、ソビエト連邦、イギリス、アメリカ合衆国、ウルグアイ、ヴェトナム、ユーゴスラビア（アルファベット順。国名は通称。1956 年当時の呼称を採用。）“Part 2, Chapter 4, f, 4, c Travelling Exhibitions of Reproductions”. Report by the Director-General on the Activities of the Organization, 1 January-30 June 1956. 9th session, New Delhi, 1956-11-05/12-05, UNESCO, 1956, p. 104, 9 C/3, cat. no. 160681. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=160681&set=523F04AD\\_2\\_364&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=160681&set=523F04AD_2_364&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-22).
  - 21) UNESCO Travelling Print Exhibition: Leonardo da Vinci: Exhibition A. Paris, UNESCO, 1952, 19p. ; UNESCO Travelling Print Exhibition: Leonardo da Vinci: Exhibition B. Paris, UNESCO, 1952, 19p. ; UNESCO Travelling Print Exhibition: Leonardo da Vinci: Exhibition C. Paris, UNESCO, 1952, 19p.
  - 22) Benito, José de. Leonardo da Vinci: The Universal Genius, 15 April 1452–2 May 1519. The UNESCO Courier. 1952, 5(4), p.6-12., cat. no. 71030. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=71030&set=5240536C\\_0\\_300&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=71030&set=5240536C_0_300&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-22).
  - 23) Torres Bodet, Jaime. Jaime Torres Bodet to the Minister for Foreign Affairs: Unesco Travelling Exhibition of Reproduction of Drawings by Leonardo da Vinci. [1952-02-14?], 2p, ALC 268572, file 7 A 145.03 (520). available from UNESCO Archives.
  - 24) UNESCO. “Countries: UNESCO Around the World”. UNESCO: Building Peace in the Minds of Men and Women. <https://en.unesco.org/countries/countries-list>, (accessed 2014-02-06).
  - 25) Schubert, Mario. Mario Schubert to Yoshida Kenichiro. 1951-05-25, 1p, UOJ/J51122. enclosed with, Le Harivel, Pierre. Pierre Le Harivel to Mario Schubert. 1951-05-07, 1p, XR/224508 DOT/J.6.133. enclosed with, Bellow, Peter. Peter Bellow to Dr. Thompson: Unesco Travelling Exhibition of Colour Reproductions to Japan. 1951-04-24, 1p, ALC Memo 946. “ユネスコ複製絵画、巡回展覧会関係雑件”. I 門 1 類 5 項 4 目 6 号, MF/CR no. I-0066. (マイクロフィルム). 入手先, 外務省外交史料館.
  - 26) 萩原徹. 萩原徹から吉田茂へ: 第 107 号 ユネスコ複製絵画展覧会に関する件. 1952-02-25, 5p. “ユネスコ複製絵画、巡回展覧会関係雑件”. I 門 1 類 5 項 4 目 6 号, MF/CR no. I-0066. (マイクロフィルム). 入手先, 外務省外交史料館.
  - 27) Torres Bodet, Jaime. Jaime Torres Bodet to the Minister for Foreign Affairs: Unesco Travelling Exhibition of Reproduction of Drawings by Leonardo da Vinci. 1952-02-14, 2p, ALC 268572. “ユネスコ複製絵画、巡回展覧会関係雑件”. I 門 1 類 5 項 4 目 6 号, MF/CR no. I-0066. (マイクロフィルム). 入手先, 外務省外交史料館.

- 28) 萩原徹. 萩原徹から吉田茂へ: 第 169 号 ユネスコ複製絵画巡回展覧会に関する件. 1952-03-28, 4p. “ユネスコ複製絵画、巡回展覧会関係雑件”. I 門 1 類 5 項 4 目 6 号, MF/CR no. I'-0066. (マイクロフィルム). 入手先, 外務省外交史料館.
- 29) その後、第二回複製画巡回展 (1869 年以前の複製名画 50 点) は 1953 年 10 月に日本に到着し、全国巡回に先立ち 10 月 19 日から 24 日まで、東京日本橋丸善本店にて展覧された。(世界巡回展 2 類. ユネスコ通信. 1953-10-20, 3(69), p. 210. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.)
- 30) 勝本清一. 勝本清一から宮崎章へ: ユネスコ複製絵画巡回展に関する件. 1952-04-22, 2p.; Shibusawa, Shinich. Shinich Shibusawa to Jean Thomas. 1952-05-13. 1p. “ユネスコ複製絵画、巡回展覧会関係雑件”. I 門 1 類 5 項 4 目 6 号, MF/CR no. I'-0066. (マイクロフィルム). 入手先, 外務省外交史料館.
- 31) Pitt and Scott: Agence de Transports et de Douane. 1952-06-11, 1p. “ユネスコ複製絵画、巡回展覧会関係雑件”. I 門 1 類 5 項 4 目 6 号, MF/CR no. I'-0066. (マイクロフィルム). 入手先, 外務省外交史料館.
- 32) 外務省情報文化局. 外務省情報文化局長から大蔵省主税長へ: 第 1395 号 巡回展覧会用ユネスコ複製画通関幹旋依頼の件. 1952-10-07, 3p.; 外務省. 外務大臣から在フランス西村大使へ: 第 284 号 レオナルド・ダ・ヴィンチ展に関する件. 1952-10-17, 4p. “ユネスコ複製絵画、巡回展覧会関係雑件”. I 門 1 類 5 項 4 目 6 号, MF/CR no. I'-0066. (マイクロフィルム). 入手先, 外務省外交史料館.
- 33) 現在当駒場博物館に所蔵されている複製画の台紙裏におかれている関税手続き完了の印を見ると、完了日が 10 月 24 日となっている。両者の日にちのずれを説明する資料は見つかっていない。
- 34) 最終開催地として小田原を含む記録資料 (Nakamura, Seiji. Seiji Nakamura to Jean Thomas. 1953-12-17, 2p, file 7 A 145.03 (520). available from UNESCO Archives.; ユネスコ通信. 1953-01-05, 3(74), p. 347. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.) と、小田原を含まず最終開催地を千葉県館山としている記録資料 (Kugimoto, Hisaharu. Hisaharu Kugimoto to Jean Thomas. 1953-02-04, 2p, file 7 A 145.03 (520). available from UNESCO Archives.; レオナルド・ダ・ヴィンチ展をかえりみる. ユネスコ通信. 1954-02-20, 77, p. 410-412. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.; 日本ユネスコ国内委員会. 日本ユネスコ活動 10 年史. 1962, p. 335.) がある。
- 35) 例えば、浜松会場では浜松市立図書館が後援に、山形会場では山形県美術家協会や山形大学が後援に加わっている。
- 36) [社団法人日本ユネスコ協会連盟; 日本ユネスコ国内委員会?]. レオナルド・ダ・ヴィンチ展についての注意事項. [1952?], p. 4-5. 入手先, 株式会社三越伊勢丹ホールディングス三越資料担当.
- 37) [日本ユネスコ国内委員会事務局]. レオナルド・ダ・ヴィンチ生誕五百年記念ユネスコ世界巡回展: 解説と目録. [石川], 石川県教育委員会, 1952, 31p. 入手先, 金沢大学附属図書館.
- 38) [日本ユネスコ国内委員会事務局]. Leonardo da Vinci. ユネスコ世界巡回展: 解説と目録. 1952, 31p. 入手先, 国立近代美術館アートライブラリ, 横浜美術館美術情報センター, 女子美術大学・女子美術大学短期大学部図書館相模原図書館.
- 39) 各地協会だより: 弘前ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-09-20, 3(67). p.161. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.
- 40) 尾崎悌之助. 学藝: ダヴィンチ展. 日本海新聞. 1953-02-22, 朝刊, p. 2. (マイクロフィルム). [記事番号 18].
- 41) 十七日からレオナルド展. 毎日新聞. 1953-09-14, 朝刊, 福島版, p. 8. (マイクロフィルム). [記事番号 60].; 素描百五十点を陳列: 19 日から福島でダ・ヴィンチ展. 福島民報. 1953-09-17, 夕刊, p. 2. (マイクロフィルム). [記事番号 61].
- 42) 各地協会だより: 盛岡ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-10-05, 3(68). p.190. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.
- 43) 甲賀忠一. 制作部委員会編. 森永卓郎監修. 物価の文化史事典: 明治/大正/昭和/平成. 展望社, 2008, p.

344-345.

- 44) 2014年2月現在、国立博物館には独立行政法人国立文化財機構により運営されている以下の4つの博物館があり、各常設展の大人観覧料金は括弧の中に示したとおりである。九州国立博物館(420円)、京都国立博物館(500円)、東京国立博物館(600円)、奈良国立博物館(500円)。
- 45) レオナルド展関連の新聞記事は、国会図書館東京館の新聞資料室に現存している限りで70記事近くにのぼる。展覧会の予告、報告、解説などの関連記事などがあり、その一覧は「ユネスコ世界巡回レオナルド・ダ・ヴィンチ展関連新聞記事一覧」(本資料集 p. 30)にまとめた通りである。
- 46) 開幕早朝からワンサ:ダ・ヴィンチ展にうっとり. 毎日新聞. 1953-01-28, 朝刊, 西部大分版, p. 6. (マイクロフィルム). [記事番号 10].
- 47) 各地協会だより: 弘前ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-09-20, 3(67). p.161. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.
- 48) 各地協会だより: 弘前ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-09-20, 3(67). p.162. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.
- 49) 各地協会だより: 熱海ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-07-05, 3(62). p. 44. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.
- 50) [記事番号 10, 29, 30, 62, 66, 71]などを参照。
- 51) 深い感銘を与う: ユネスコ世界巡回展. 毎日新聞. 1953-09-19, 朝刊, 福島特集版, p. 6. (マイクロフィルム). [記事番号 62].
- 52) 各地協会だより: 今治ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-04-15, 2(56). p. 457. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.
- 53) [日本ユネスコ協会連盟?]. ユネスコ世界巡回展御案内. 日本橋三越7階, 1953-06-16/21, 日本ユネスコ協会連盟ほか, [1953?], 1p. 入手先, 株式会社三越伊勢丹ホールディングス三越資料担当.
- 54) レオナルド・ダ・ヴィンチ展日伊協会参考出品目録. 日本橋三越, 1953-06-16/21, 日本ユネスコ協会連盟ほか, [出版社不明], [1953?], 1p. (プリント). 入手先, 国立近代美術館アートライブラリ.
- 55) 日伊協会. 日伊協会史: 1940~1993年の歩み. 1993, p. 54.
- 56) 各地協会だより: 大分ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-03-16, 2(53). p. 400-401.; 各地協会だより: 熱海ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-07-05, 3(62). p. 44.; 各地協会だより: 盛岡ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-10-05, 3(68). p. 190-191. いずれも入手先, 日本ユネスコ協会連盟.
- 57) 各地協会だより: 熱海ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-07-05, 3(62). p. 44.; 各地協会だより: 新潟ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-09-05, 3(66). p. 141.; 各地協会だより: 弘前ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-09-20, 3(67). p. 161.; 各地協会だより: 盛岡ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-10-05, 3(68). p. 190. いずれも入手先, 日本ユネスコ協会連盟.
- 58) 各地協会だより: 青森会場. ユネスコ通信. 1953-09-20, 3(67). p. 162-163. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.
- 59) 大戦中の日本におけるレオナルド・ダ・ヴィンチ受容については右記文献を参照。谷口英理. 第二次世界大戦前後の日本におけるルネサンス言説. 鹿島美術財団研究年報, 2004, (21) 別冊, 2003年度. p. 390-397.; 特集, 「近代」と「美術」の外側: 「アジア復興 レオナルド・ダ・ヴィンチ展覧会」と戦時下の「レオナルド時代」. 近代画説. 2003, (12). p. 64-79.; 谷口英理. レオナルドと近代日本. 池上英洋編. レオナルド・ダ・ヴィンチの世界. 東京堂出版. 2007, p. 414-431.
- 60) 海潮音. 日本海新聞. 1953-02-26, 朝刊, p. 1. (マイクロフィルム). [記事番号 19].
- 61) 原タイトル: Mostra di Leonardo da Vinci
- 62) アジア復興レオナルド・ダ・ヴィンチ展覧会. 日本世界文化復興会主催, 情報局, 陸軍省, 海軍省後援, 東京上野池ノ端産業館, 1942-07-10/10-10.



- 63) アジア復興レオナルド・ダ・ヴィンチ展覧会開催趣旨 . 新建築 . 1942-08, 18(8), [n.p].
- 64) 芸術の秋に贈る : 世界巡回ダ・ヴィンチのデッサン展 . 毎日新聞 . 1953-09-26, 朝刊, 群馬版, p. 8. (マイクロフィルム). [記事番号 70].
- 65) 横山正 . 美術博物館のコーディチェ・アトランティコ . 教養学部報 . 1972-05-22, (187), p. 4.
- 66) 阿部良雄 . 教養学部美術博物館 . 学内広報 . 1988-10-06, (800), p. 43-44.
- 67) Thomas, Jane. Jane Thomas to The Minister for Foreign Affairs: Unesco Exhibition of Reproductions of Drawings of Leonardo da Vinci. [1952-10-6?], 1p, ALC 330271. “ユネスコ複製絵画、巡回展覧会関係雑件”. I門 1 類 5 項 4 目 6 号, MF/CR no. I-0066, (マイクロフィルム). 入手先, 外務省外交史料館.
- 68) [社団法人日本ユネスコ協会連盟; 日本ユネスコ国内委員会?]. レオナルド・ダ・ヴィンチ展についての注意事項 . [1952?], p. 3-4. 入手先, 株式会社三越伊勢丹ホールディングス三越資料担当.
- 69) 高木貞一, 高木貞一から林馨へ . 1953-09-18. 1p. “ユネスコ複製絵画、巡回展覧会関係雑件”. I門 1 類 5 項 4 目 6 号, MF/CR no. I-0066. (マイクロフィルム). 入手先, 外務省外交史料館.
- 70) 世界巡回展 2 類 . ユネスコ通信 . 1953-10-20, 3(69), p. 210. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.
- 71) Bellow, Peter. Peter Bellow to K. Matsumoto. 1953-10-13, 1p, ALC 404.887. “ユネスコ複製絵画、巡回展覧会関係雑件”. I門 1 類 5 項 4 目 6 号, MF/CR no. I-0066. (マイクロフィルム). 入手先, 外務省外交史料館.
- 72) Tsuji, Naoshiro. N. Tsuji to Jean Thomas. 1954-11-05, 1p. “ユネスコ複製絵画、巡回展覧会関係雑件”. I門 1 類 5 項 4 目 6 号, MF/CR no. I-0066. (マイクロフィルム). 入手先, 外務省外交史料館.
- 73) 現 2 号館、12 号館、13 号館、14 号館周辺.
- 74) 第五回美術展覧会目録 . 東京大学教養学部第二本館, 東京大学教養学部美術博物館委員会 . 1953-12-12/13, 1953, 8p. 入手先, 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館.
- 75) 美術展出品目録 . 教養学部報 . 1954-01-28, (27), p.1.
- 76) 東京大学教養学部長辻直四郎 . 辻直四郎から外務省情報文化局長へ : 第 414 号 レオナルド・ダ・ヴィンチ複製図代金支払について . 1954-10-06, 1p. ; Currall, Madeline. Madeline Currall ro K, Matsumoto. 1954-10-12, 1p, ALC 487.959. ; 西村在フランス特命全権大使 . 西村大使から外務大臣臨時代理緒方竹虎へ : 第 1336 号 東京大学購入ダヴィンチ複製画代金支払いに関する件 . 1954-10-27, 2p. ; 情報文化局長 . 情報文化局長から東京大学教養学部長辻直四郎へ : 第 874 号 レオナルド・ダ・ヴィンチ複製画代金支払いに関する件 . 1954-10-28, 2p. ; Tsuji, Naoshiro. N. Tsuji to J. Zuckerman: Unesco Book Coupons. 1954-11-05, 1p, VIA 481096. ; Tsuji, Naoshiro. N. Tsuji to Jean Thomas. 1954-11-05, 1p. “ユネスコ複製絵画、巡回展覧会関係雑件”. I門 1 類 5 項 4 目 6 号, MF/CR no. I-0066. (マイクロフィルム). 入手先, 外務省外交史料館.
- 77) Hepp, François. François Hepp to N. Tsuji. 1954-11-18 1p, ALC. 494.579, file 7 A 145.03 (520). available from UNESCO Archives.
- 78) 三上次男 . コプトの織物と梅原さん . 教養学部報 . 1958-07-04, (72), p. 2.
- 79) 三上次男 . 美術博物館開館 : 週二回公開をめざして . 教養学部報 . 1962-05-25, (105), p. 3.
- 80) 木内信蔵 . 美術博物館の現状と将来 . 教養学部報 . 1967-07-08, (150), p. 11.
- 81) 美術博物館委員会記録 : 1963-1987. [n.p.]. (ノート). において、1968 年の出来事を記録していると思われるページに“観覧者 1 名 (ダヴィンチのデッサンの模写)”というメモが確認できる。
- 82) 美術博物館のおしらせ . 教養学部報 . 1972-05-22, (187), p. 1. ; レオナルド・ダ・ヴィンチの素描と手稿 (複製) 展 . 美術博物館委員会 . 1972-06-01/22, [n.p.]. (プリント). 入手先, 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部駒場博物館.
- 83) 小野健一 . 特集, 第 2 回レオナルド・ダ・ヴィンチ展 : からくり師 . 美術博物館ニュース . 1973-11-28, 1(1), 4p.

- 84) 静岡文化芸術大学創立 10 周年記念展覧会：レオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画展．静岡文化芸術大学ギャラリー．2010-10-14/27. <http://sowwwwt.suac.jp/~leonardo/>, (accessed 2013-09-22)
- 85) 記念シンポジウム：乱反射するレオナルド・ダ・ヴィンチ．静岡文化芸術大学 176 大教室．2010-10-15 (15:00-18:00). テッロースイ, ロベルト. “謎なきレオナルド”. 高田和文. “ダリオ・フォーが読む《最後の晩餐》”. マッツィ, マルコ. “現実の停滞 レオナルドからデュシャンに至る思考の絵画のために”. オリジナルビデオ併映.

## 図版出典

---

- [fig.1] 筆者撮影．2013-02-07.
- [fig.2] ユネスコ通信．1953-09-20, 3(67). p.162. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟．
- [fig.3] ユネスコ通信．1953-03-16, 2(53). p. 399. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟．
- [fig.4] ユネスコ通信．1953-03-15, 2(53). p. 385. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟．
- [fig.5] ユネスコ通信．1953-08-20, 3(65). p. 119. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟．
- [fig.6] ユネスコ通信．1953-07-05, 3(62). p. 47. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟．
- [fig.7] ユネスコ通信．1953-07-20, 3(63). p. 70. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟．
- [fig.8] ユネスコ通信．1953-08-05, 3(64). p. 95. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟．
- [fig.9] ユネスコ通信．1953-09-20, 3(67). p. 163. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟．
- [fig.10] ユネスコ通信．1953-07-05, 3(62). p. 29. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟．
- [fig.11] ユネスコ通信．1953-07-05, 3(62). p. 47. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟．
- [fig.12] ユネスコ通信．1953-04-15, 2(56). p. 456. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟．
- [fig.13] ユネスコ通信．1953-04-15, 2(56). p. 456. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟．
- [fig.14] 株式会社三越伊勢丹所蔵記録写真．
- [fig.15] 株式会社三越伊勢丹所蔵記録写真．
- [fig.16] Japan National Commission for Unesco. Unesco Activities in Japan. 1953, p. 24.
- [fig.17] Japan National Commission for Unesco. Unesco Activities in Japan. 1956, p. 34.
- [fig.18] 特集, アジア復興 レオナルド・ダ・ヴィンチ展覧会．新建築．1942-08, 18(8), p. 213.
- [fig.19] 筆者撮影．2011-05-30.
- [fig.20] 筆者撮影．2011-05-30.

\*fig. 16-18 は国立国会図書館所蔵資料の複写物より掲載。

## 表作成用参考文献

---

[表 1] ユネスコ複製画世界巡回展全 17 回テーマ一覧  
 展覧会カタログ

The Art of Writing: An Exhibition in Fifty Panels. Paris, UNESCO, 1965, 50p, CUA.64/VI.10/A, cat. no. 56424, UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=56424&set=5243DCF5\\_1\\_160&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=56424&set=5243DCF5_1_160&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-26).

報告書『Report of the Director-General』(年代順)

“Part 4, Chapter 4, 4, b, 2 Reproduction of Works of Art”. Report by the Director-General and the Executive Board on the Activities of the Organization during the Year 1953. 8th session, Montevideo, 1954-11/12, UNESCO, 1954, p. 138-140, 8 C/3, cat. no. 160775. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=160775&set=5243E8FB\\_1\\_90&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=160775&set=5243E8FB_1_90&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-26).

- “Part 2, Chapter 4, f, 4, c Travelling Exhibitions of Reproductions”. Report by the Director-General on the Activities of the Organization, 1 January-30 June 1956. 9th session, New Delhi, 1956-11-05/12-05, UNESCO, 1956, p. 104, 9 C/3, cat. no. 160681. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=160681&set=523F04AD\\_2\\_364&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=160681&set=523F04AD_2_364&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-22).
- “Part 2, Chapter 6A, E, 6, b Travelling Exhibitions of Colour Reproductions”. Report by the Director-General on the Activities of the Organization, 1 January-30 June 1958; Report by the Director-General on the Activities of the Organization, 1 July-30 September 1958. 10th session, UNESCO, 1958, p. 107, 10 C/3 + ADD.1 + ADD.2 + CORR, cat. no. 160589. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=160589&set=52442434\\_3\\_10&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=160589&set=52442434_3_10&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-26).
- “Part 2, Chapter 4A, D, 2, a Travelling Exhibitions”. Report by the Director-General on the Activities of the Organization, 1 January-30 June 1962. 12th session, 1962-11-9/12-12, UNESCO, 1962, p. 69, 12 C/3, cat. no. 160437. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=160437&set=524428F3\\_3\\_112&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=160437&set=524428F3_3_112&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-26).
- “Part 2, Chapter 4A, C, 2, b Travelling Exhibitions”. Report by the Director-General on the Activities of the Organization. 13th session, 1964-10-20/11-19, UNESCO, 1964, p. 46, 13 C/3, cat. no. 160381. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=160381&set=52442A49\\_2\\_157&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=160381&set=52442A49_2_157&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-26).
- “Part 2, Chapter 3A, C, 2, b Travelling Exhibitions”. Report by the Director-General on the Activities of the Organization 1 January -30 June 1966. 14th session, 1966-10-25/11-30, UNESCO, 1966, p. 52-53, 14 C/3, cat. no. 160247. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=160247&set=52442CC2\\_0\\_280&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=160247&set=52442CC2_0_280&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-26).
- “Part 2, Chapter 3, C, 3, b, 2 Dissemination of Works of Art”. Report of the Director-General on the Activities of the Organization in 1971 - Communicated to Member States and the Executive Board in Accordance with Article VI.3.b of the Constitution. 17th session, 1972, UNESCO, p. 153, 17 C/3, cat. no. 2957. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=2957&set=524441CB\\_3\\_466&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=2957&set=524441CB_3_466&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-26).
- “Part 2, Chapter 3, C, 3, b, 2 Dissemination of Works of Art”. Report of the Director-General on the Activities of the Organization in 1972 - Communicated to Member States and the Executive Board in Accordance with Article VI.3.b of the Constitution. 18th session, Paris, 1974, UNESCO, 1973, p. 171-172, 18 C/3-1, cat. no. 3105. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=3105&set=52443435\\_0\\_54&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=3105&set=52443435_0_54&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-26).
- Maheu, René. “Part 2, Chapter 3, D, 2, d, 2 Dissemination of Works of Art”. Report of the Director-General on the Activities of the Organization in 1973 - Communicated to Member States and the Executive Board in Accordance with Article VI.3.b of the Constitution. 18th session, Paris, 1974, UNESCO, 1974, p. 174, 18 C/3-2 + CORR, cat. no. 12174. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=12174&set=52443435\\_0\\_54&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=12174&set=52443435_0_54&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-26).
- M’Bow, Amadou-Mahtar. “Part 2, Chapter 3, D, 2, d International Circulation of Cultural Works: Dissemination of Works of Art”. Report of the Director-General on the Activities of the Organization in 1974 - Communicated to Member States and the Executive Board in Accordance with Article VI.3.b of the Constitution. 19th session, Nairobi, 1976, UNESCO, 1975, p. 148, 19 C/3, cat. no. 17533. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=17533&set=5244357E\\_0\\_104&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=17533&set=5244357E_0_104&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-26).
- M’Bow, Amadou-Mahtar. “Chapter 4, A Culture in the Service of Development: (40)”. Report of the Direc-

- tor-General on the Activities of the Organization in 1975-1976, Communicated to Member States and the Executive Board in Accordance with Article VI.3.b of the Constitution. 20th session, 1978, UNESCO, 1978, p. 49, 20 C/3, cat. no. 29249. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=29249&set=52444A7F\\_0\\_245&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=29249&set=52444A7F_0_245&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-26).
- M'Bow, Amadou-Mahtar. "Chapter 4, 2, Objective 3.5 Participation in Cultural Life: (48)". Report of the Director-General on the Activities of the Organization in 1977-1978, Communicated to Member States and the Executive Board in Accordance with Article VI.3.b of the Constitution. 21st session, Belgrade, 1980, UNESCO, 1979, p. 43, 21 C/3 + CORR, cat. no. 41690. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=41690&set=52444AC0\\_0\\_256&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=41690&set=52444AC0_0_256&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-26).
- M'Bow, Amadou-Mahtar. "Chapter 4, 2, Objective 3.5 Participation in Cultural Life: (57)". Report of the Director-General on the Activities of the Organization in 1979-1980, Communicated to Member States and the Executive Board in Accordance with Article VI.3.b of the Constitution. 22nd session, 1983, UNESCO, 1981, p. 55, 22 C/3 + CORR. 1-3, cat. no. 45841. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=45841&set=52444AF1\\_2\\_248&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=45841&set=52444AF1_2_248&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-26).
- M'Bow, Amadou-Mahtar. "Chapter 4, 2, Objective 3.5 Participation in Cultural Life: (34)". Report of the Director-General on the Activities of the Organization in 1981-1983, Communicated to Member States and the Executive Board in Accordance with Article VI.3.b of the Constitution. 23rd session, Sofia, 1985, UNESCO, 1985, p. 48, 23 C/3, cat. no. 64636. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=64636&set=52444B02\\_3\\_259&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=64636&set=52444B02_3_259&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-26).
- M'Bow, Amadou-Mahtar. "1, Major Programme 11, Programme 11.2 Cultural Identity and Intercultural Relations: (20)". Report of the Director-General on the Activities of the Organization in 1984-1985 Communicated to Member States and the Executive Board in Accordance with Article VI.3.b of the Constitution. 24th session, 1987, UNESCO, 1986, p. 58, 24 C/3 + ADD, cat. no. 70759. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=70759&set=52444B61\\_0\\_278&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=70759&set=52444B61_0_278&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-26).
- Mayor, Federico. "1, Major Programme 11, Programme 11.2, 2, (18)". Report of the Director-General on the Activities of the Organization in 1986-1987 Communicated to Member States and the Executive Board in Accordance with Article VI.3.b of the Constitution. 25th session, 1989, UNESCO, 1988, p. 56, 25 C/3, cat. no. 80237. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=80237&set=52444C13\\_1\\_302&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=80237&set=52444C13_1_302&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-26).
- Mayor, Federico. "1, A, Major Programme Area 3, Programme 3, 1, 3 Lessons Learnt and Their Future Implications". Report of the Director-General: 1990-1991. 27th session, 1993, UNESCO, 1992, p. 48, 27 C/3, cat. no. 92295. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=92295&set=523EE598\\_1\\_96&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=92295&set=523EE598_1_96&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-22).
- Mayor, Federico. "Annexes, A, 5 Missions of the Director-General and Deputy Directors-General". Report of the Director-General: 1990-1991. 27th session, 1993, UNESCO, 1992, p. 148, 27 C/3, cat. no. 92295. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=92295&set=523EE598\\_1\\_96&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=92295&set=523EE598_1_96&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-22).
- ユネスコ機関紙『The UNESCO Courier』
- Read, Herbert. Water Colours on a Grand Tour. The UNESCO Courier: A Window Open on the World. 1958, 11(9), p. 26-29, cat. no. 66293. UNESDOC, [http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=66293&set=523EDD78\\_2\\_11&gp=1&lin=1&ll=1](http://www.unesco.org/ulis/cgi-bin/ulis.pl?catno=66293&set=523EDD78_2_11&gp=1&lin=1&ll=1), (accessed 2013-09-22).
- The Art of writing. The UNESCO Courier. 1964, 17(3), p. 4-23, cat. no. 61468. <http://www.unesco.org/ulis/>

cgi-bin/ulis.pl?catno=61468&set=5243E662\_0\_451&gp=1&lin=1&ll=1, (accessed 2013-09-26).

〔表2〕 生誕 500 年記念レオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画展 国内巡回先一覧

ユネスコ協会連盟機関紙『ユネスコ通信』

レオナルド・ダ・ヴィンチ展をかえりみる. ユネスコ通信. 1954-02-20, 3(77), p. 410-412. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.

ユネスコ通信. 1953-01-05, 3(74), p. 347. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.

新聞記事

ダ・ヴィンチ展:宮崎、延岡両市で開く. 毎日新聞. 1953-01-16, 朝刊, 西部, 宮崎版, p. 6. (マイクロフィルム).

日曜文化:ダ・ヴィンチ展. 毎日新聞. 1953-01-18, 朝刊, 西部, 宮崎版, p. 6. (マイクロフィルム).

短信:ダ・ヴィンチ展. 宮崎日向日日新聞. 1953-01-22, 朝刊, p. 4. (マイクロフィルム).

ユネスコ世界巡回展:レオナルド・ダ・ヴィンチ展—生誕五百年記念—. 毎日新聞. 1953-08-05, 朝刊, 北海道版, p. 8. (マイクロフィルム).

書簡

Kugimoto, Hisaharu. Hisaharu Kugimoto to Jean Thomas. 1953-02-04, 2p, file 7 A 145.03 (520). available from UNESCO Archives.

"Leonardo da Vinci" in Japan. 1953-05-16, p. 4, JU-SG-96, file 7 A 145.03 (520). available from UNESCO Archives.

Nakamura, Seiji. Seiji Nakamura to Jean Thomas. 1953-12-17, 2p, file 7 A 145.03 (520). available from UNESCO Archives.

Suzuki, Tadakatsu. Tadakatsu Suzuki to Jean Thomas: Unesco Travelling Exhibition

〔表3〕 生誕 500 年記念レオナルド・ダ・ヴィンチ複製素描画展 各地開催関連イベント一覧

ユネスコ協会連盟機関紙『ユネスコ通信』

各地協会だより:熱海ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-07-05, 3(62). p.44. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.

各地協会だより:浜松ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-07-05, 3(62). p.45-46. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.

各地協会だより:今治ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-04-15, 2(56). p.457. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.

各地協会だより:熊本ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-03-05, 2(52). p.384. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.

各地協会だより:松江ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-03-15, 2(53). p.398. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.

各地協会だより:長野県佐久ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-07-20, 3(63). p.71. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.

各地協会だより:和歌山ユネスコ協会. ユネスコ通信. 1953-05-20, 2(59). p.522-523. 入手先, 日本ユネスコ協会連盟.

新聞記事

あす広島で開幕:ダ・ヴィンチ複製画展. 中国新聞. 1953-03-08, 夕刊, p. 2. (マイクロフィルム).

ダ・ヴィンチ展開く:8-11 日広島文化センター. 毎日新聞. 1953-03-06, 朝刊, 西部, 広島版, p. 6. (マイクロフィルム).

ダ・ヴィンチ展:ユネスコなどで開催. 河北新報. 1953-09.07, 夕刊, p. 3. (マイクロフィルム).

町から村から:甲府、レオナルド・ダ・ヴィンチ複製画展. 毎日新聞. 1953-06-22, 朝刊, 山梨版, p. 8. (マイクロフィルム).

素描複製 150 点陳列し:賑わうダ・ヴィンチ展. 中国新聞. 1953-03-09, 朝刊, p. 6. (マイクロフィルム).

素晴らしい複製画を出品:ダ・ヴィンチ展に甲府市の露木氏. 毎日新聞. 1953-06-23, 朝刊, 山梨版, p. 8. (マ

マイクロフィルム).

初日はやくも一千名の観客：ダ・ヴィンチ展の幕開く．毎日新聞．1953-03-10, 朝刊, 西部, 広島版, p. 6. (マイクロフィルム).

露木寛．ダ・ヴィンチの名画：キリストとユダ「最後の晩餐」を中心に．山梨日日新聞．1953-06-24, 朝刊, p. 4. (マイクロフィルム).

内山正, 大坪建三, 川原隆夫, 佐藤義詮, 高山虔三, 浜田九一郎．ダ・ヴィンチ展の意義と見方：座談会．毎日新聞．1953-01-27, 朝刊, 西部, 大分版, p. 6. (マイクロフィルム).

#### その他

[日本ユネスコ協会連盟]. ユネスコ世界巡回展御案内．日本橋三越 7 階, 1953-06-16/21, 日本ユネスコ協会連盟ほか, [1953?], 1p. 入手先, 株式会社三越伊勢丹ホールディングス三越資料担当.

〔表 4〕 駒場博物館の歩みとレオナルド複製素描画コレクション展示歴

阿部良雄．教養学部美術博物館．学内広報．1988-10-06, (800), p. 43-44.

[美術博物館委員会]. 教養学部美術展覧会記録．[n.d.], 5p. 入手先, 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館.

美術博物館のおしらせ．教養学部報．1972-05-22, (187), p. 1.

美術展出品目録．教養学部報．1954-01-28, (27), p.1.

レオナルド・ダ・ヴィンチの素描と手稿 (複製) 展．美術博物館委員会．1972-06-01/22, [n.p.]. (プリント). 入手先, 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部駒場博物館.

三上次男．美術博物館開館：週二回公開をめざして．教養学部報．1962-05-25, (105), p. 3.

三上次男．コプトの織物と梅原さん．教養学部報．1958-07-04, (72), p. 2.

小野健一．特集, 第 2 回レオナルド・ダ・ヴィンチ展：からくり師．美術博物館ニュース．1973-11-28, 1(1), 4p.

第五回美術展覧会目録．東京大学教養学部第二本館, 東京大学教養学部美術博物館委員会．1953-12-12/13, 1953, 8p. 入手先, 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館.

東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館．“過去の展覧会”．駒場博物館ホームページ．2012. <http://museum.c.u-tokyo.ac.jp/old.html>, (参照 2013-09-27).

横山正．美術博物館のコーディチェ・アトランティコ．教養学部報．1972-05-22, (187), p. 4.

横山正．実験、啓蒙と研究の場として．教養学部報．1984-12-10, (300), p. 5.

義江彰夫．美術博物館案内．教養学部報．2004-04-01, (473), p. 4.

#### 謝辞

本調査にあたり、ユネスコ公文書記録管理局のレファレンス・アーキビスト、トランス・アデーレ氏には、度々質問に応じていただいたほか、貴重な資料や情報を何度にも渡ってご提供いただくなど、多大なるご協力をいただきました。また、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の本間雅子氏には、『ユネスコ通信』のバックナンバーを閲覧する機会をご用意いただきました。一般財団法人福岡ユネスコ協会事務局長吉田浩二氏にも巡回展福岡会場の開催にかかわる資料をご提供いただきました。株式会社三越伊勢丹ホールディングス業務本部総務部の山田秀樹氏には、ユネスコ複製画世界巡回展東京会場の写真や開催記録をはじめとする貴重な資料群をご公開いただきました。第一生命保険株式会社、独立行政法人日本学術振興会、日本ユネスコ国内委員会事務局の方々にも、メールや電話での質問にご対応いただきました。

ここに記して心よりの感謝を申し上げます。